郊外地域における空き家の活用阻害因と解決策の実践(つくばハウジング研究会)

課題	つくば市の空き家無料相談会で未解決者が郊外を中心に約5割に達している。さらに、空き家活用団体では活用継続が人的・経済的に難しいことが多い。これら問題の解決が求められている。
目的	空き家の利活用が難しい郊外(衰退)地域での解決策を示すことである。
取組内容	(1)阻害因の分析:空き家無料相談を通して、郊外特有の活用阻害因を把握・分析する。 (2)活用提案と試行:空き家活用団体の調査を行い、活用モデル(解決策)を提案し試行する。 (3)社会実験の実施:郊外戸建住宅地の活性化に向けた自治体の支援策を想定して、空き家バンク登録時の住宅診断補助と、2敷地合体時の公租公課等の補助について社会実験を行う。
成果	(1)空き家相談約215件の内容を分析・整理し、郊外地域での活用阻害因と解決策をまとめた。 (2)空き家活用実施10団体の活用実態と活用希望側団体の要望を把握した。また、空き家活用を 継続するための方法として、複数団体による相乗り利用による解決策を提案し試行した。 (3)社会実験の参加者を募集し、空きバンク登録時の住宅診断応募者3件、2敷地合体応募者2件 を得た。その成果を踏まえ、自治体の空き家活用支援策として有効であることを確認した。 以上の成果を「郊外地域での空き家活用の推進方法」としてまとめ、当会ホームページで公開した。

(1)期間中に本会5件、市12件の相談を実施した 市の過去分含め215件の相談内容を分析

特定非営利活動法人 つくばハウジング研究会

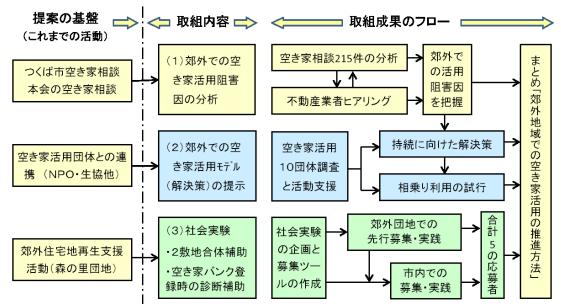
- (2)福祉カフエにおいて複数団体 の相乗り利用を提案し試行
- (3)社会実験2課題5件を実施







敷地合体補助



空き家バンクの住宅診断補助